

Abstract

インヒビターを有する血友病患者に対する計画的整形外科手術

Elective orthopaedic surgery for inhibitor patients

E. C. Rodriguez-Merchan, J. D. Wiedel, T. Wallny, I. Hvid, E. Berntorp, G-E Rivard, N. J. Goddard, F. Querol and H. Caviglia

我々は、インヒビターを有する血友病患者51例に施行された計 108 件の計画的整形外科手術（EOS）について報告する。これらの手術の内訳は、放射線滑膜浄化術 88 件と主要整形外科手術 20 件であり、世界各地の 9 施設で施行された。患者の平均年齢は 28.5 歳（5～40 歳）で、平均追跡期間は 2 年間（1～5 年）であった。結果は 82 件が良好、15 件がやや良好、11 件が不良であった。このうち、滑膜浄化術が施行された患者群（41 例に 88 件の滑膜浄化術が施行された）は平均年齢が 14.3 歳（5～40 歳）で、平均追跡期間は 6.5 年（1～10 年）であり、結果は 66 件が良好、14 件がやや良好、8 件が不良で、合併症はみられなかった。一方、主要整形外科手術が施行された患者群（10 例）の平均年齢は 32.5 歳（27～40 歳）で、平均追跡期間は 2.3 年（1～5 年）であり、

結果は 16 件が良好、1 件がやや良好、3 件が不良であった。また、20 件の主要整形外科手術のうち 3 件では術後出血が発生した（合併率 15%）。しかし、これらが発生した 3 例では遺伝子組換え型活性型第 VII 因子製剤の投与量が不十分であった。このような合併症は認められたものの、これらの結果は、EOS を必要としているインヒビター保有血友病患者においても、これらの手技が高い成功率で施行可能であることを示している。換言すれば、EOS は今やインヒビターを有する血友病患者に対しても実施可能であり、これらの患者の QOL を改善することができるといえる。多彩な専門分野からなる医療チームが各症例を注意深く分析することにより、インヒビターを有する患者に対する計画的整形外科手術の実施が可能となるであろう。